

雨宿りの箱庭
麒麟さんが地涌？
森下 温美
(関西医療学園)

I. はじめに

本報告は、筆者が『雨宿りの箱庭』と名づけているDV (domestic violence) シェルターでの箱庭の第四報である。筆者は二次被害に配慮するなかで、入所者の無意識に師事する態度が身につく、日本人の集合的無意識に存在する元型とその拡充法について知ることになった。箱庭研究にも様々な立場があると思われるが、淘汰されつつあるこの古典的な方法は、逆転移の問題も軽減されやすく、初心者こそ学びやすい魅力的なスタイルの1つであるように思われる。

II. 事例の概要

クライアント (以下 CI と表記) は小学校1年生男児で、母(26歳)と弟(4歳)とともに入所してきた。個人情報ゼロ (今・ここの見性) に近く、制作は終始CIの自由意志に任せられながら、進められた。

III. 事例の流れ

1 箱庭①

じゃんけんで一番乗りしたものの、フリーズ気味。「好きなようにしていい？」と聞いてから、地門 (右下) にシェルターを置くも、「砂触っていい？」「どこにおいてもいいの？」と不安な様子だったが、天門 (左上) の砂で人門 (左下) に砂時計を作ってからダイナミックな動きに転じた。シェルターを押しつけ、貝殻を駆使して犬の家を作り、子犬が扉を開けて親犬を迎える。自信がついたらしく、皆に披露した。夕方砂にまみれた虫のミニチュアを届けに来る。

2 箱庭②

後で母親に見てもらおうと宣言してから開始。着想から完成まで逐一セラピスト (以下 Th と表記) に報告しながら、卵や居心地のよさそうな犬の家を作る。「ごみ乗るように」鬼門 (右上) に網を置く。手前に橋や箸、茶せんを置き、電車の終点を作り、「電車って不思議」と言う。狭い道や駐車場を作ったあと、地門に山を作ると、弟がパトカーに連行される。天門に息を吹きかけ、電車に栄養を与えると、地門は「バイキン城」になる。「もう一回スル！」と母を呼んでくる。

3 箱庭③

天門にローラーをかけて、猫のおうちを作ってからガソリンスタンドで給油しながら「これ以上入れたら

爆発する」と電車が終点に移動。キューピーは照れくさいので、かたつむりを乗せて柵を越える。大事なものが落ちないように、網を設置していると、ハリセンボンも勝手について来て、「だんだん海みたいに変身するねん」と言う。洞窟のネコの宝物は、誰もいない時取りに行くことになっている。いじめっこや弟の話。食べ物を調達しながら「爆発するぞ！」などぶつぶつ言い、「一番賢いのは」とThに聞く。友達の話。スパイスを作る。もう一回すると宣言し、何回も来室。

4 箱庭④

池など「お掃除」し、漠然とした不安な気持ちを言語化しながら、大盛りからしセットを作り、手前を掘ると、鬼門に山ができた。砂がたつぷりあると、「ぶ」の音をThと爆発させながら大きな声で掛け合う。「川ってきれいやろう。下をまずきれいにするねん。(僕の)顔まで入れる」と言い、透明な筒にジュースを作り、網から砂を落とし、「気持ちいいー！」とはしゃぐ。

5 箱庭⑤

「10回する」と言い、弟の話。灯籠や花の絵の後、井戸に触れてうれしそう。壊された病院の工事中、「あやまったのに許してくれない」と訴え、夢の報告のなかで、「あいつは僕の弟じゃない。Bのだ」と言う。手前に玉を積んだトラックを移動 (Bの軌跡でもある) させ、とても嬉しそう。ポスターを作って張りにいく。「もう1回したい」と、たびたび来室しては、製作中の子に「がんばってね」「頭でよく考えてね」と言う。

6 箱庭⑥

Bについての認識が変化し、「信号にも命あるで」「おもちゃにもあるで」と嬉しそう。きれいな池を作ると、修理の必要があると思っていた電車は充分走れることがわかった。直視が活発になった自覚があるらしく、生き活きしてくる。「最初は造るの緊張したで」「頭ではわからへん」「途中で分かれてよかったわ」「ここきたら忘れるし」「シャワー作りたい」「遊んでるんちゃうで」「お酒造ろう」「上から見て」と饒舌で説明的、指示的になってくる。「(犬は)影に当たって気持ちがいい」「ほんとは優しい犬やねんで」金の鎖を共同で張るが、Thは注意され通し。ビーズのシャワーで「変わった世界になる」「もっとなあ」と退室。

7 箱庭⑦

「おなかいっぱい。大人食やから」と言い、Bら友達を見送り、「Cいじめた」と言う風貌はいつの間にか遅く変化していた。四隅にビーズを置き、信号を置き、「信号らしくなった」と言い、弟もまた強くなったと報告。「いろんなこと考えて(造って)る」と言い、井戸と橋をつなぐ。橋は頑丈。山を通過するには切符が要るし、山の石は取ってはいけない。「きれい」「天国みたい」「びんぴかりーん」「心配だからもう少し張るところ」「前は緊張してた」また共同で鎖を張る。「上から見たらきれいな町や」「順番においていく、それが僕の夢やねん」「やっぱり(僕)頭いいねんなあ、みんなもよくなったらいいのにな」と言う。

8 箱庭⑧

「あのなあ明日引越しやからなあ」と来室。静かに集中して取り組む。天門のひよこから。「きいりんさん」と、金の鎖をにこっとして置いていく。食べ物や動物園とレストランを造る。対処後のことを少し話して、さりと振り切るようにして退室していった。

IV. 考察

① 地涌

法華経には、地から建物や涌いて来るといった象徴的な表現が見られる。法華とはセルフである。井筒やユング、カルフは日本人が易に元型を見ていることを指摘した。筆者はこのケースに、箱庭の砂の中からその原理が湧き出しているような印象を受けた。

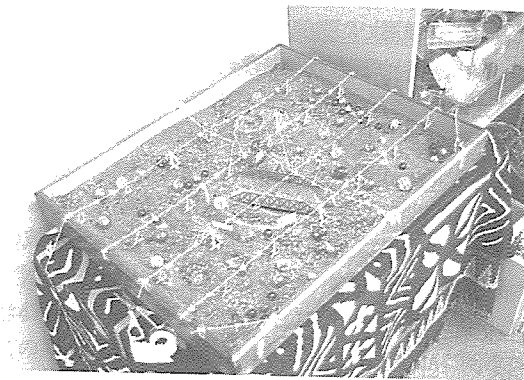
② 麒麟児

最後の作品にきりんを置いた時CIはとても嬉しそうであった。このケースはきりんが出現するための過程であったかもしれない。キトラ古墳の4神は木・火・金・水の象徴であるが、もう1つ麒麟があり、これは土気の象徴である。当時のThは開知していなかったのだが、学習不振から全てにおいて自信喪失していたCIは、イメージの中で麒麟児 (優秀な子ども) になり、癒されたのではないかと推測される。

③ 網と鎖

縄張りとは、普遍的に重要な意味を持つが、日本におけるその作法には独特のものと指摘されている。シェルターは社会的要請に迫られて俄かに設立されたものであったため、ストレスを感じる入所者が多かった。子どもたちの殆んどは箱庭を好んで制作していたが、傷つきの深い子どもほど、その傾向が強く、福祉のセーフティネットから漏れたものこそ温かく癒す箱庭は帝釈天の宮殿にかかる因陀羅網のようである。空海も「重々帝網なるを即身と名づく」と詠んでいるが、

CIは初期には砂の上に網を張り、後には箱全体にThと共同で金の鎖を張った。教師にこっぴどく怒られ、子どもたちからいじめられ、スタッフからも誤解されて自信喪失していた瀕死の魂は箱庭が有する宇宙の原理に救われ、癒されたのではないだろうか。



④ 木陰に憩う犬

仏 (佛) は絶対神ではない。いみじくもCIが言語化したように、無心に行うとき、無尽蔵の癒しに転化する要素が箱庭にあることを知ったThの脳裏には、以下のような仏教説話における仏とCIのこころの作業が重なる。「あなたのことば通りならば、この人は一切世間のあらゆる人々を救済するために努力している。偉大なる仙人よ、もしこの世間に仏陀という大樹があれば、よく一切の天人や世人・阿修羅たちの煩惱という毒蛇を除くであろう。もし諸の衆生が、この仏陀という大樹の涼しい木陰に憩うならば、煩惱のすべてが消滅するであろう。偉大なる仙人よ、この人が未来世において仏陀となるならば、われわれはく善く逝けるもの>の導きによって、無量の燃えさかる煩惱の炎を滅することが、できるであろう」

V. おわりに

カルフが述べたような自由にして守られた空間のなかでは、表現は溢れ出すものであるが、全身全霊で表現しているのだから、普通感覚では何も見えてこないし、せつかくの表現に対してこれほど不遜な態度はないだろう。先行研究が易や禅の哲学の習合に東洋の変容の象徴メカニズムを見ている以上、わが国の箱庭研究には、その見性 (見ながら更新してゆくこと) が不可欠である。わからなさに耐えながら、それを研究するより途がないのではないか。しかし、その態度変更により、我々は根本原理をつかむことに成功し、ユング心理学など他の思想についてもより深く理解することができるようになるだろう。